

第5回「プルトニウム混合燃料に関する懇談会」における  
県民意見聴取の意見要旨(意見発表者)

発表 順番	(ふりがな) 氏名	意見区分		意見要旨
		賛成 容認	反対 慎重	
1	はらだあきこ 原田明子			<p>プルサーマルは危険性が増します。 また、受け入れると島根県は使用済みMOX燃料が溜まり、核のゴミ置き場になってしまいます。</p>
2	みしろかずあき 三代和昭			<p>危険性について 1. 危険な放射能を排出する。 2. 格納容器の破損しない保証はない。 3. 使用済み燃料(核のゴミ)が際限なく蓄積される。</p>
3	たかやまさちこ 高山幸子			<p>プルサーマル用には作られていない原発で、しかも世界で実績の無い高含有率でいきなりの商業利用で使用するのは危険。使用済みのMOX燃料の再処理に関しても高レベル廃棄物の受け入れに関しても目処のつかないまま、プルサーマル開始。使用済みMOX燃料は目処がつくまでは島根原発に貯蔵されることになるが、核戦争防止国際医師会議報告書によれば、MOX燃料は地中に埋められる温度に下るまで500年かかるそうだ。                      現行のMOX燃料はウラン燃料作成の濃縮過程ででてくる廃棄物の劣化ウランとプルトニウムの混合物で、リサイクルといっても使用済み核燃料から使われるのは全体量のわずか1%のプルトニウムのみ。MOX燃料の加工・輸送・貯蔵・使用済みMOX燃料の処理に要するエネルギー投入量も差し引いて考えるべき。                      プルサーマル実施で、猛毒の核兵器材料が国中で大量消費・大量移送されることになる。十分な安全対策は可能か。</p>
4	くるまはるえ 来間玄江			<p>今電気は、私達の生活に欠かせないものであり、資源のない日本では、原子力に頼らざるを得ないと思う。                      プルサーマルについて種々と説明を聞くと燃料のリサイクルであり、燃料にプルトニウムをわずかに混ぜること以外は特に変わったことをするわけではないのだと思う。                      また、現在も原子炉の中ではプルトニウムが30%の発電を行っているという説明を受けており、特性などは承知しているとのことであるので、十分安全確保の措置はとられると思っている。                      MOX燃料は、将来は六ヶ所村で造られるようだが、現在、中国電力のプルトニウムのほとんどが海外で保管されていると聞いているので、当面は海外で加工されて発電所に運んでくることになるようである。                      世界では、核開発の問題が騒がれているが、核兵器を持たない国で唯一再処理が認められている日本が、プルトニウムをいつ迄も利用せずに保存することは諸外国から疑惑の目で見られることになりかねないと思われる。プルサーマルという形で平和利用することの重要性を考えていかなければいけないということも理解できる。                      したがって私は、今後も安全運転と情報公開、発電所との信頼関係が継続することをベースにするならば、この計画の意義は十分理解できるものと考えてるので容認したいと思う。</p>

## 第5回「プルトニウム混合燃料に関する懇談会」における 県民意見聴取の意見要旨(意見発表者)

発表 順番	(ふりがな) 氏名	意見区分		意見要旨
		賛成 容認	反対 慎重	
5	さえきちひろ 佐伯千尋			<p>・今回のプルトニウム混合燃料を今後使用したいということに対して、地域住民が最も関心があるのは、安全性についてであります。</p> <p>・推進するか継続課題にするかは、安全性が確保できるか否かであると考えます。</p> <p>・安全性をいえば、島根原発はこれまでの30年間大過なく運転してきている。中国電力そして、そこに集う人々が安全意識を高く持ってやってこられた成果だと感じています。</p> <p>・ただし、小さなトラブルは結構発生してきていたように思いますが、その都度迅速に新聞等を通じて情報を開示され、対応処置が終了し確認がとれるまでは運転を見合わせるという姿勢も評価に値するものと思います。</p> <p>・これまでの原発運営に対し、私は信頼を寄せています。そうでなければ、わざわざ原発から直線で5kmぐらいのところに家を構えることは出来ません。</p> <p>・上記の事を前提として、賛成意見を下記に述べます。</p> <p>・実は私もプルトニウムが始めから入っている燃料というフレーズに対し、非常な違和感を抱きまして、何とはなしに使って欲しくないなと思いました(その理由は原爆の主材料であるということからくるアレルギー的な心理かと自分では分析しています)。しかし、プルサーマルとは何?…これは無知からくる恐怖感であると思い、私も技術者の端くれですので、少し調べてみました。</p> <p>通常燃料とMOX燃料とを比べて見ると、通常燃料でも核分裂によってプルトニウムが作られ、約30%の電力がプルトニウムの核分裂によって得られます。一方、MOX燃料は始めから入っているため約50%の電力がプルトニウムの核分裂によって得られているという事が分かりました。</p> <p>MOX燃料の使用実績を調べてみますと、世界においては40年前から使用されてきており、現在でも多くの原発で使用されていることが分かりました。また日本においても美浜、敦賀の原発で使用実績があり問題は発生していないことも分かりました。</p> <p>・の結果から、通常燃料でもプルトニウムが作られそれを燃料として島根原発では安全に発電が行われてきていることから、比率が少々上がったところで、キチンと安全管理をすれば問題は無いであろうと思われるし、海外の実績も合わせて考えれば、安全は従来どうり確保されるのではないかと考えます。</p> <p>・よって、MOX燃料使用に賛成します。</p> <p>・なお、絶対安全はありえないので、リスクを幾重にも検討し備えをすることを忘れてはいけないと思います。</p>
6	もりわきよしひろ 森脇義弘			<p>現在の私たちの生活は、高度に発達した科学技術に支えられ、病気をしても安全に診療、診察を受けることもできるし、進んだIT技術の恩恵でいかなる情報も瞬時に入手できるようになりました。このように科学技術を発展させていくために必要不可欠なものに電気エネルギーがあります。</p> <p>電気エネルギーの安定した供給があるからこそ科学も発展し、その科学に基づき、医薬品や電気製品といった各種製品の製造が可能になったと思います。</p> <p>しかしそのような中、20世紀での大量生産、大量消費のつげが地球温暖化や酸性雨といった地球環境問題を引き起こしました。その原因は、使いやすい石油や石炭といった化石燃料を使いすぎたことです。</p> <p>今私たちに求められていることは、省エネはもちろんですが、もっと大きな効果のあることを確実に実践していくことではないかと思えます。その一つに既に技術的に確立され安心して使え、地球温暖化や酸性雨を防止する効果的な技術をきちんと正しく利用することがあると思えます。電気エネルギーをつくるものとしては風力や太陽光といったいわゆる自然エネルギーの利用もそうですが、すでに30年以上の実績がある原子力発電の利用もその一つです。</p> <p>今回問題となっています、使用済み燃料から取り出したプルトニウムを燃料にしたいいわゆるMOX燃料の利用についても、正に確立された技術の利用であり地下資源に恵まれないわが国にとってなぜ今まで利用しなかったのか不思議な気さえします。</p> <p>私は、最近ドイツを旅行しましたが、ドイツでは既に40年も前から原子力発電所でMOX燃料を使用していました。さらに現在までMOX燃料が原因になったトラブルは発生していないということでした。MOX燃料の利用は現在のウラン燃料の利用と同じということでした。</p> <p>地下資源に恵まれず、エネルギー自給率もたった4%程度しかないわが国にとって、安全に正しく利用することができる技術がそこにあるのであれば、その技術を積極的に利用していくことが必要であると思えます。</p>

## 第5回「プルトニウム混合燃料に関する懇談会」における 県民意見聴取の意見要旨(意見発表者)

発表 順番	(ふりがな) 氏名	意見区分		意見要旨
		賛成 容認	反対 慎重	
7	くらつかかあり 倉塚香織			<p>これまで、原子力防災訓練を2回にわたって見学しました。1回は中学校で、2回目は、住民の避難訓練でしたが、どういう事故が起こったのかの設定が曖昧で、本当にこれで大丈夫なのかという疑問を持ちました。</p> <p>特に、松江市の隣で受け入れ先になるであろう県立病院がある出雲市では、ほとんど対策ができていないのが現状です。MOX燃料を燃やすという前提もなく作られた炉で、ウランよりもコントロールがむずかしいプルサーマルが実施されれば、事故の確率も高くなり防災訓練のより厳格で広範囲な地域での実施が必要となりますが、どのようにしてそれが実現するのでしょうか。いまの現状ではむずかしいと思います。</p> <p>特に、放射線の影響を受けやすい子どもたちを、どうしたら守れるのでしょうか。危険が増すことは、避けてほしいとやむなく原発のある暮らしを受け入れなければならない島根県民としてまた、子どもを持つ保護者として願います。</p>
8	あしはらやすえ 芦原康江			<p>リサイクルとか、ウラン資源節約などと必要性を強調されるが、プルサーマルはさまざまな問題を抱えており、やってはならないリサイクルです。</p>
9	きしこ 岸みよ子			<p>エネルギー資源の乏しい日本にとって原子力は不可欠であり、また地球温暖化の進行を食い止める発電方法だと思う。</p> <p>プルサーマルを実施し、輸入ではなく自前の準国産資源として、リサイクル資源であるウランやプルトニウムを有効活用していくことは、次世代にエネルギー資源を残す選択だと思う。</p> <p>安全性については技術的な難しいことはわからないが、これまでと設備や発電方法が特に変わらないということや、海外では長年安全に発電されている実績があることから安心をしている。</p> <p>鹿島町に発電所が建設され30有余年、地元では、初期には海域のうみ現象などをめぐり厳しい雰囲気の時もあった。今はそれらを乗り越え、日ごろの中電社員とのコミュニケーションなどにより住民とも信頼関係が保たれていると思う。</p> <p>島根原子力発電所ではこれまで大きな事故もなく運転されてきた。私はこれまでの安全運転の姿勢は評価に値すると考えている。また、プルサーマルを実施する際は、個別には発電所を作るときと同様に、国の厳格な審査が先に行われた上で実施されると聞いており、安全確保には信頼を置きたいと思う。これらの信頼を基本として、私はこの計画を容認したいと思う。</p>
10	あおやまさお 青山正夫			<p>この度の中国電力(株)によるプルサーマル実施計画について、地元鹿島町の住民として意見を申し述べたいと思う。</p> <p>昨年決定された原子力政策大綱の中で重要な意味をもつ核燃料サイクルの実現に向けてのプルサーマル計画を認めて良いのではないかと。</p> <p>原子力発電所が運転開始してから30年以上経つが、この間、中国電力の運転実績は「安全」という観点から評価できるものと思っている。</p> <p>私は、平成16年度に町内で原子力安全・保安院が開催した「対話の集い」に参加する機会に恵まれ大いに参考になった。今度のプルサーマル計画については、これまでの国内、諸外国の実証運転の実績を見ると十分に納得できるものである。また、「エネルギー資源の安定的確保」、「CO<sub>2</sub>排出の低減」といった観点からも意義あるものと考えます。</p> <p>しかし、実施にあたっては、さまざまなリスクコミュニケーションを図り、国と事業者が「安全」についての責任をしっかりと果たしていくことが前提であると思います。この点を強く要望するものです。</p>